

# 臨川小だより

7月号

令和5年6月30日(金)  
渋谷区立臨川小学校

蛍飛び交う 臨川小学校

副校長 安田明子

いずくよりいずくへ  
蛍かそけくも  
うつそ身もえて  
夜ぞら翔ぶなり (河井 須也子)



過日6月16・17日に、PTA主催の「臨川ほたる祭り」が行われました。4年ぶりの開催ということで、校内では当日に向けての様々な準備が進められました。

まずは学校として、裏庭の清掃や雑草抜き、物品の整理整頓やポンプの整備をし、ホタル池周りを整えました。地域やPTAの方には、会場のシート張りやホタルの管理、ポスター掲示等の広報活動から当日の誘導まで、運営の全てにわたりご尽力いただきました。



4年生はシブヤ未来科の学習として、「臨川小から発信～ほたるまつり～」に取り組みました。シブヤ未来科は、自分で課題を設定し、情報を集め分析し発信するという探究型の学習です。子供たちは「ホタルの名前の由来」「食べ物」「光る体の仕組み」「鑑賞のマナー」など、様々なテーマで調べ学習を行い、ポスターにまとめました。本校卒業生であるPTA会長がゲストティーチャーとして、臨川小学校とホタルの関わりを教えてくださいました。学習意欲の向上につながったようです。

私もこの機会に臨川小学校の歴史を調べようと、創立八十周年の記念誌を紐解いたところ「(学校誕生の)当時は渋谷川の流れも清く、その川に臨んだということで臨川の名が生まれた」という一文を見付けました。都会化が進んだ現在の様子からは想像し難いことですが、かつて清らかな川にホタルが舞い飛んでいたこの地域の様子に思いを馳せました。

当日の会場は、待ち時間ができるほどの盛況ぶり。たくさんの方々ご来校くださり、改めて臨川小学校がいかに愛されているかを実感することができました。ご協力いただき、ありがとうございました。

今回の経験は、まさしく本校教育活動の特色の一つである「ホンモノ体験」そのものであったと思います。

ほたる祭りでは、発光する(ホンモノの)ホタルの姿に初めて触れたという声もたくさん聞かれました。暗がりの闇の気配を感じ、ホタルの命の灯りを見付け、「ここで光っているよ。」という囁き声を聞き、係の方の笑顔に触れた「ホンモノ体験」。一人一人の心には、感動とともに、母校の思い出が未長く残ることでしょう。

さて、あと十数日の学校生活の後に、夏休みを迎えます。この夏も、子供たちがいろいろな体験を通して、知恵や価値を獲得し、心身ともに大きく成長することを願っています。